

# 第一礼拝次第



メッセージ: 渡真利彦文牧師  
プレズリッド: 郭永東牧師  
ライブ配信: 伊禮信義先生

前奏	5 4 0	会衆
主の祈り		会衆
プレイズ	「主イエスを喜ぶことは」 「主イエス様はぶどうの木」	会衆
聖書朗読	出エジプト記 2:23~3:1 (旧約聖書 p.96)	司会
祈賛	讚美歌 9 0	司会 会衆
メッセージ	「神の山ホレブに来た」	牧師
祈賛	第二讚美歌 1 6 4	牧師 会衆
報頌	新生 6 7 2 b	司会 会衆
告栄		牧師
祝禱		



# 第二礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師  
司会: 郭永東牧師

メッセージ: 「おどろくべき財産」  
聖書: ルカ 18:9~14 (新約聖書 P.144)  
プレイス: 「タンバリンと踊りで」  
「主の喜びが心にあれば」  
新生 3 2 6 新生 2 2 7



# ファミリー礼拝

聖書: 出エジプト記 3:1~11  
メッセージ: 「モーセの召命」

## <巻頭言>

「お盆に思うこと・・・」  
牧師 渡真利彦文

今年は8月16—18日にかけて先祖を供養するといわれる「お盆」がやってきます。

お盆はインド・中国・日本の三カ国混合の祭りなのですが、土着の信仰と既成宗教の理屈と民衆の世俗心のミックスで、クリスチャンにとっては不思議なものと言わざるを得ません。お盆は人々の生活に入っていて、季節感(盆と正月、お中元)や解放感(盆踊り・エイサー、精霊流など)を感じさせてくれます。

死者はひとえに最善を成して下さる神様の御手の中にあります。「先祖供養」という発想は神の主権と衝突します。

さらに、先祖がこの世に帰ってくるという思いも、生者の世界と死者の世界とを分けることができない、ぼんやりとした靈魂観に基づくもので、生者と死者の境界がはっきりしている聖書の生死観に反します。

クリスチャンはお盆にあらわれた様々な宗教観やはっきりしない靈魂観と対決する責任を覚えざるを得ません。しかしお盆の中に織り込まれた、生きている親への孝行という趣旨は活用することができます。

死んで、もはや手の届かないところに行ってしまった親に、不孝の罪滅ぼしとばかり、盛大なお盆行事をするよりは、生きている親に手紙を書くなり、訪問するなり、ご馳走をするなり、肩をもむなり、迎え火(ウンケーの火)や送り火(ウークイの火)のかわりに「花火」で楽しみあうことはどうでしょう。それに何よりいくらか宗教的な雰囲気の中にいる家族に福音の生死観を伝える機会となるなら、最善なことと思います。